

かいたく

教会のない地域に教会を 刈り入れ場に働き人を

教役者フェローシップ会場
朝霧野外活動センターから見る夜明けの富士山

「…私たちが慰めを受けるとすれば、それもあなたがたの慰めのためです。その慰めは、私たちが受けているのと同じ苦難に耐え抜く力を、あなたがたに与えてくれます。」

(コリント人への手紙第二一章六節)

神から受ける慰めは極めてポジティブなものです。それは第一に、慰める人になるための慰めです。苦しいから慰めを欲するのですが、神の慰めは苦しみから通り過ぎて楽になるためのものではありません。苦しみの中にある人たちを慰めるためのものです(Ⅱコリント一章四節)。神の慰めを自分の益だけではなく、他の信仰者たちの益のために用いることを神は望んでおられます。第二に、神の慰めは「苦難に耐え抜く力」となるものです。センチメンタルな事柄ではありません。自分では打開できない問題を経験されたことがあるでしょう。神の慰めはその中に道を切り開いて行く力です。苦しみを避けることに信仰とエネルギーを費やすのではなく、苦難の真ん中を突っ切る力としての慰めを頂いているのですから、それにふさわしく生きたいものです。

慰める人となることは、慰めと力が必要とする人とかかわる(交わる)ことです。パウロは人とかかわり満載の人でした。パウロの手紙の最後の部分に「くによろしく(伝えてください)」「または「くがよろしくと言っています」とあるように、信仰者とかかわりの絶えない人です。彼は苦難のたびに神に慰められているので、苦難に耐え抜く力を頂いています。それを他の人たちのために喜んで用いているのです。もし、神の慰めを自分自身のためのものとしていたのなら、他の人とかかわりも消極的になるでしょう。コロナの影響による信徒間の交わり、教会間の交わりが減ったことは否めませんが、それ以前に、信仰の本質の問題として捉えたいところです。慰める人になるためにです。

2023年度 国内宣教委員会一般会計収支報告

【収入】		【支出】	
献金	¥2,139,400	「かいたく」発行費	¥257,904
		カンファランス費	¥217,514
		委員会費・交通費	¥0
		慶弔費	¥0
		開拓伝道支援費	¥889,000
		神学生支援費	¥340,000
		事務費	¥4,800
		その他	¥18,571
収入合計	¥2,139,400	支出合計	¥1,727,789
前年度繰越金	¥3,337,487	次年度繰越金	¥3,749,098
合計	¥5,476,887	合計	¥5,476,887

開拓基金会計収支報告

【収入】		【支出】	
今年度献金	¥450,000	今年度貸付	¥0
今年度返済	230,000		
収入合計	¥680,000	支出合計	¥0
前年度繰越金	¥6,162,890	次年度繰越金	¥6,842,890
合計	¥6,842,890	合計	¥6,842,890

コロナ対応基金会計収支報告

【収入】		【支出】	
今年度献金	¥60,000	事務費	¥0
一般会計より	¥0		
収入合計	¥60,000	支出合計	¥0
前年度繰越金	¥486,165	次年度繰越金	¥546,165
合計	¥546,165	合計	¥546,165

2023年度 会計報告

いつも国内宣教委員会の働きのためにお祈りくださり、感謝申し上げます。昨年はおよ3年にわたる新型コロナの問題が収束に向かう年でした。こうしたなか一昨年に続いて宣教カンファランスを神学校で開催することができました(9月)。さらに今年に入ってから、教役者フェローシップを開催することができ、交わりを深めることができました(1月)。これらの集まりの開催にあたっては、皆様がお献げくださった献金の一部を参加者の交通費・宿泊費の補助や、各種運営費のために用いさせていただいております。心より感謝いたします。2024年も国内宣教委員会は開拓伝道所および諸教会の働きを支援するために活動していきますので、続けてご支援をお願いいたします。(委員長:井口)



1.1 能登地震に関わる支援金について、諸教会から感謝の声が届いています

- ▶ ご自宅が全壊された教会員は、ご家族の家を複数回って仮住まいとされています。今必要な移動のための交通費などに支援献金を活用され、喜んでおられます。
- ▶ 外壁を損壊された教会員は、応急処置としてブルーシートで屋根を覆っています。その修理に100万はかかるとのことで、諸教会の兄弟たちに本当に支えられているとのことです。
- ▶ 現地で人道支援を展開されているマハー宣教師を中心とする支援チーム(能登ヘルプ)に支援献金が届けられています。廃棄物撤去、物資配布、炊き出しなど、具体的な支援のために、支援献金を用いたいとのことです。

3月1日時点でおよ330万円が支援金として献げられています。被災された教会や教会員およびその関係者に対して140万円をすでに送金しています。今後、継続的な支援が必要と予想されます。引き続き、祈りに覚えてくださり、ご支援くださるようお願いいたします。

- ※ 諸教会の先生方、教会員のご実家が被災しておられ、支援が必要な場合はお知らせください。
- ※ 送金時に「支援献金」とご明記ください(他の献金と区別/個人で振込まれる方も同様)。

献金振込先(郵便振込)
00140・2654375
JBBF国内宣教委員会

JBBF教役者 フェローシップ メッセージ要約

榎本 昌博
掛川聖書バプテスト教会



1. 御言葉の励まし

ローマ人への手紙には神学的な内容が多く含まれていますが、一二章からはクリスチャンたちの実践的な歩み方が書かれています。そして一五章には「聖書が与える忍耐と励ましによって、私たちが希望を持ち続ける」ようにと教えています。またそのために私たちは「力のない人たちの弱さを担うべきであり」と教えています。この「担う」とは、「重い荷物を運ぶ」という意味を持っています。そしてそれは比喩的な意味として「義務を負うこと」にも使われています。つまり、御言葉による励ましは任意ではなく他者に対する義務であり、責任でもあります。そしてそれは神ご自身が私たちにしてくださったことです。

処女降誕を告げられたヨセフとマリアはよく準備されたたましいでした。そして、彼らはよく整えられ、よく耕された神の畑でした。ですから、天使を通して告げられた神のご計画を受け入れることができました。ただ、そうした信仰を彼らが最初から持っていたわけではありません。そこには長いイスラエルの歴史の



中で神が民族を通して語られた御言葉とご計画がありました。また、何よりも力のない人たちの弱さを担われた神の優しさと同様、そして御言葉が与える忍耐と励まし、彼らの信仰を育てたと思います。そのようなお方を主と仰ぐ私たちも自分を喜ばせるためではなく、交わりと御言葉を通して隣人を励まし、隣人が神にあつて良い行いに歩み、隣人がクリスチャンとして成長し、建て上げられるために働くように教えられています。

2. 交わりの励まし

ここで預言者エリシャについて触れたいと思います。列王記第二に「預言者の仲間」という言葉が9回出てきます。この「預言者の仲間」というのは共に預言



者としての訓練を受け、また預言者としての働きを行っている人たちでした。彼らの多くがエリヤの時代に起こったアハブとイゼベルによる迫害から生き延びた人たちだったと思います。しかし、生き延びたと言っても彼らの生活が楽になったわけではありませんでした。彼らは常に貧困に苦しんでいました。そうした預言者の仲間を励まし、助けたのがエリシャでした。

私たちはエリヤ以上に力強い働きをした印象をエリシャには持っています。しかし、エリシャは預言者の仲間には優しく謙虚でした。エリシャは預言者の仲間を自分の子供のように愛しました。彼らが助けを求めてきた時には嫌な顔ひとつせず彼らを助けました。ある時は預言者であった夫を失った家庭を助けました。



ある時は飢饉で食べることに困っていた預言者の仲間たちを助けました。そして借りた斧の先を水の中に落としてしまった預言者の仲間を助けました。また、預言者の仲間が自分たちと一緒に来てほしいと嘆願した時も、「では、私も行こう」と言って同行しました。エリシャは偉大な預言者で人々から尊敬され恐れられていたと思いますが、決して彼らの上に立って権威を振るう事はせず、謙虚になって彼らに仕えました。奉仕しました。そして彼らの悩み、彼らの問題を親身になって聞きました。



ち・宣教師たちと考えたいと思います。私たちは聖書から「教会は自治独立しているものである」という信条を持っています。その私たちの信条の元になつている聖書は、同労者の相互扶助、つまりお互いに助け合い、支え合うことも教えています。預言者の仲間の集まりを預言者学校と呼んだりしますが、それは単に預言者を生み出す集団ではなく、相互扶助する集団でもありました。私たちは年齢の差があっても、エリシャのように「何をしてあげようか。私に話さない」「では、私も行こう」「斧はどこに落ちたのか」と声をかけ、寄り添え和える存在でありたいです。若い人たちも世代の格差を乗り越え、年配の先生たちへの遠慮はしないで、抱えている問題や悩みを先輩の先生たちに訴え、「一緒に来てください」「斧を落としました。助けてください」と持ちかけてください。

を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。

【ガラテヤ六章二節】互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することになります。

【テサロニケ第一 五章一一節】ですからあなたがたは、現に行っているとおり互いに励まし合い、互いを高め合いなさい。

皆さん、交わりの励ましは私たちの信仰生活において欠かせないものです。仲間たちと共に歩み、お互いを高め、励まし合いながら、神の愛を分かち合いましょう。感謝します。

教役者フェローシップ 参加者証し



セントラルバプテスト教会
(前橋) 香川 尚徳

「御言葉の励まし、交わりの励まし」のテーマどおり、励ましの恵み豊かな集会でした。説教者の榎本昌博先生ならびに国内宣教委員の皆さまに心から感謝申し上げます。
お交わりでいただいた多くの励ましの中から、二つお証をさせていただきます。

① 共感による慰め

ある先生のお証にとっても驚きました。その先生が話されたことは、私も経験したことだったからです。それまで私は、この経験は自分くらいだろうと思っていました。その場で共感し合うことができました。そしてお互いに大いに慰めをいただきました。―「あなたがたが経験した試練はみな、人の知らないものではありません」というお言葉が真実であることを覚え、お言葉からも励ましをいただきました。

② 主の御手の守り

先生方のお証は、主が信じられないような解決を与えてくださったことや解決途上にあり、未だ出口も見えず模索中のことなどさまざまでした。ただ状況は違っても、先生方はそこに信仰者としての姿で立ってお



られました。あきらめることなく、すべてを神さまに信頼して、目の前の問題に正面から取り組んで前進しようとしていました。

「わたしは、ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々のためにも、お願います」(ヨハネの福音書一七章二〇節)。イエスさまはここで、すべての信仰者のために祈られています。神さまの救いのご計画は、すべての信仰者に託されて今も進行中です。それが神さまのご計画であるからこそ、神さまは直接ご紹介くださり、信仰者をその御手で徹底的に守り、私たちが与えられた目的を果たすように導いてくださっています。お証を通して、ただ一心に神さまに信頼して歩む信仰者であるようにと教えられ、励まされました。

滝山聖書バプテスト教会
鄭 永健(ティエイケン)

1月の教役者フェローシップに参加できたことを感謝します。御言葉の学びと先生方との交わりの恵みを頂き、恵みのひと時でした。

榎本先生のメッセージ「御言葉の励まし、交わりの励まし」を通して良い学びを頂きました。まず、御言葉の励ましにおいては、ヨセフが御言葉に励まされて、マリヤを受け入れたことは、神様の優しさと哀れみ深さの現れとし、御言葉に励まされることの素晴らしさを教えられました。私はもちろんのことですが、教会の兄弟皆さんも日々御言葉から励ましを受けるためにできることは何なのかを考えさせられました。掛川教会で行われているバイブル＋1M(聖書から1分間のメッセージ)は素晴らしい働きだと思いました。

次に、交わりの励ましにおいては預言者エリシャが仲間への関心のところから、教役者同士が互いに関心を持ち、助け合いを通しての交わりの大事さを教えられました。このような交わりは、同労者にとって、最も必要な信仰の励ましであるとのことでした。私は普段フェローシップ先生方と関わりが少なかったことを反省し、これからはより関心をもつ

船橋聖書バプテスト教会
安藤 倫子

女性の教役者との交わりを切望していた私にとって、教役者フェローシップの案内は「疲れたたましいへの冷たい水」と感じました。午前中の婦人会を終えてから出発するので朝霧への到着は第一集会が終わるころになるかと思っていました。婦人の皆さんの協力と主の守りの中で着いてみれば、丁度証しが始まったところで、主をほめたたえながら席につきました。

「みことばの励まし、交わりの励まし」をテーマに榎本先生から2回のメッセージを頂きました。特に「交わりの励まし」について、列王記第二の四章、六章、エリシャの預言者のともがら(仲間)への励ましから教えられました。エリシャは仲間だけでなくその家族に対しても関心をもっており、試練の時に「何をしてあげようか。私に話さない」と語り、具体的な知恵を与えます。ともがらが助けを求めれば「では、私も行こう」と同行し、失敗したともがらを責めるのではなく、「どこに落ちたのか」と落とした斧を一緒に心配し、手助けをします。祈ることとはもちろんのことですが、私に同労者へのこのような具体的な愛の行

て関わりたいと思いました。

今回たくさんの先生方と交わりができて感謝です。牧会上の課題を互いに分かち合い、意見交換などができて、有益なひと時でした。経済的に大変厳しい中にもかかわらず、献身的な先生方の姿勢に励まされると共に、先生方のために何かできるのかを考えさせられました。滝山教会は決して経済的に余裕があるわけではありませんが、教会の兄弟の皆さんと共に考え、主の知恵を求めたいと思います。

最後に、このような機会を与えてくださった国内宣教委員会の働きに感謝いたします。そして諸教会の先生方の働きと、兄弟姉妹皆様の信仰の祝福のためにお祈りいたします。



いは無かったと悔い改めさせられました。

また、願っていた女性の教役者の方々との交わりも、集会後の分ち合い、分科会、食事、お風呂、お部屋で尽きることなく与えられました。(婦人たちが交わるように子どもたちを見てくださった夫である先生方にも感謝いたします)。教会や家庭での恵みや祈りの課題、これからのビジョン、懐しい神学校での思い出。同じ信仰と召しをいただいた者達だからこそ共有できる、通じ合える主からの恵みの時間でした。「祈っています。また会いましょう」と、満たされて朝霧を後にしました。女性の教役者のともがらは集まるのは大変なことですが、今もお顔を思い出しながら、祈れる幸いの中にあります。



カルバリの丘バプテスト教会 藤沢 籌子

国内宣教委員会では、教役者フェローシップという伝道者とその夫人に限定した交わりの集会を企画してくださいました。今回、2回の集会と分科会の他に女性伝道者による分かち合いの会をもちました。私たちは2つのグループに分かれ、伝道者夫人だけで2日間にわたってゆっくりお互いの悩みや苦しさを知り、折り合う場与えられました。私はBグループに入り、「アフターコロナ」についての話し合いからスタートしました。各教会におけるコロナの影響は、特に高齢者の欠席が多く、「なかなか集会に戻ることができない」「子供たちが教会から離れてしまった」「新しい集会の再開はいつまでもコロナの感染を恐れて慎重になる人がいる」など共通するものでした。特に大きな交わりの機会である食事に関しては、慎重に再開を考えているという教会が多いことが分かりました。翌日は「（感情、ストレスの）セルフコントロール」の話し合いがもたれました。私たち牧師夫人は悩みを抱えていても自分の胸に閉まって置かなければならないことが多く、いつも孤独で忍耐することが普通に強いられる立場です。夫で

甲府聖書バプテスト教会 藤田ますみ

今回、久しぶりに教役者の先生方と直接語り合う機会が与えられたことは本当に感謝でした。2回の分かち合いの時間がありました。2回の分が「伝道者の介護問題」「伝道者のセルフコントロール」「アフターコロナの伝道」などについて語り合いました。

セルフコントロールでは、やはり主との交わりが一番大事。様々な問題や悩み事が押し寄せますが、主に頼り、み言葉から力をいただき、解決をいただくのが最善だと再認識しました。

介護問題は、これからますます直面する課題だと感じています。親の介護のために教役者を辞された先生方もいらっしゃいますし、妻あるいは夫の介護をしながらの伝道、という先生方もいらっしゃいます。自分たちもいつ介護される側になるかわかりません。年齢と共に肉体は弱くなるのは必然です。そうした中でいかに主にお仕えし、また助けを必要とする方（特に家族）にどう寄り添っていくか、バランスも知恵も必要だと思いました。

アフターコロナの伝道では、コロナによって始めざるを得なかったオ

ある牧師と話していても、男女の感覚的な違いもあり、十分に理解してもらえず、心が萎えてしまいそうになることが多くあります。今回のグループによる話し合いでは時間を多くとってくださったので、より理解ができたように感じます。互いが共通する同じ立場にいるということ（各教会では個別の問題を抱えて悩んでいるのですが）が深い安心感に繋がりが、悩んでいても決して口にしてはいけないという重圧から、解き放たれていきました。このように思い悩んでいるのは私だけではないのだという仲間意識を持つことによって自分が抱えている問題が解決するわけではなくても、元気が湧いてくるのです。「ですからあなたがたは、現に行っている通り、互いに励ましあい、互いを高め合いなさい」テサロニケ人への手紙第一 五章十一節



セントラルバプテスト教会 （前橋） 香川 美穂

恵み豊かな主の御名の御名を賛美いたします。

時ゆるされて、教役者フェローシップに参加させていただきました。深く広くお恵みをいただきました。たくさんありますが、以下3つを証しいたします。

①交わりの感謝。久しぶりにお会いする先生方、存じあげてはいたけれど、なかなか交わる機会のなかった先生方や姉妹たちとゆっくりと交わることができました。分科会や自由な交わり、また食事の時にそれぞれの思いや言葉を交換しあって、神様のご臨在と励ましが豊かにあることを感じりました。

立川聖書バプテスト教会 有本 歩

今回のフェローシップで御ことばと交わりの励ましを豊かにいただきました。特に印象に残っているのは分かち合いで「伝道者のセルフコントロール（感情・ストレス）」について話した時のことです。この頃の私は、子育てをしながらお仕える大変さに直面しており、心身共に疲弊していました。デボーションや祈りの時間を十分に持てない日が続いており、御ことばに感動する事も減ってしまっていました。こういった話を先生方が親身になって聞いてくださり、ご自身の体験などをお聞かせくださいました。分かち合いが進むうちに、張り詰めていた気持ち少しずつ緩んでいき、集会で聞いた御ことばが心の奥までしっかりと入ってきました。

エリシャは預言者仲間の声を聞いて、その声に関心を持って関わりましたが、私は自分の中に「辛い」「苦しい」等の声を聞いても、その声に関心を払おうとしませんでした。声は聞いても「こういうものだから。声を聞いても」「こういうものだから。私だけが大変なわけではない」と突き放していたのです。声に関心を持たない結果、適切な対処を行うことが出来ず、心身共に疲弊してし

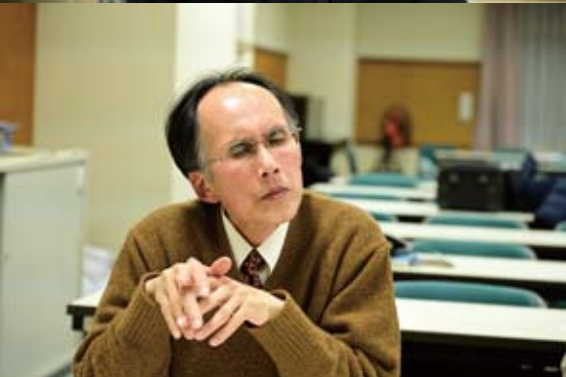
ように蜜よりも私の口に甘く広がりました。そして、私の魂を生き返らせて、私の目を明るくしていただきました（詩篇一九七篇七、八節）。③碎かれることの必要。ある先生に近況を伺うとご夫妻で口をそろえて「失敗ばかりです。信徒さんに迷惑かけてばかりです」とおっしゃいました。その姿勢の低さ、教会への愛の深さ、謙遜、へりくだり、柔和、寛容、私にはないものばかりであると示されて、恥ずかしさでいっぱいになりました。セントラル教会に遣わされて3年目になります。遣わされた喜びと使命を確信しつつ、碎かれて、より低く主と教会にお仕えしたいとの思いを新たにしました。主がこの集会を祝福してくださったこと、委員の先生方、また送り出してくださった信徒の皆さまに感謝し、主にご栄光をお返します。



まったのだと気付かされました。メッセージで語られたのは「預言者仲間の声を聞いて、その声に関心を持つ」という事でしたが、まずは自分自身の声を聞いて、その声に関心を持つことから始めなければと思わされました。

先生方が私の声を聞いてくださりその声に関心を持ってくださって、適切な対処へと導かれました。これまで自分がしてきた交わりを思い返すと、声は聞いていても、その声に関心を持つことが出来ていなかったように思います。今回、交わりの本質を学ばせていただき、本当に感謝です。教会で様々な活動が再開されていく中で、この「交わり」を大切にお仕えしていきたいと強く願わされました。





連載⑥

名古屋聖書バプテスト教会国内宣教師 上田 晃

イエス・キリストの恩寵の中で

小さなからし種の教会

京都聖書バプテスト教会が5名の基礎会員によって発足したことは前号で紹介したとおりです。JBBFの交わりに加わったこと、静岡バイブルバプテスト教会の伝道所として発足したことを紹介させていただきました。「教会の進む道を誤りたくはない」。そのような思いから、福音的と称されている教派、教団の指導者をお迎えして、聖書観、教理、聖霊の教理（特に異言について）、教会観、教会の歴史、所属団体の背景、教会政治などを伺い、説教も聞きました。ペレヤ教会のように、毎晩のように集まっては、あのこと、このこと。新約聖書から聖句の裏付けを求めて、祈りながら話し合いました。学びと祈りの末、色眼鏡を外して見るならば、バプテスト・バイブル・フェローシップの教会は聖書が教えている教会の姿だと判断したのです。

上田晃は伝道者として、牧師先生と朝の祈りを共有した後、京都府下や大阪府下、滋賀県下の村々を泊りがけで回って、キリスト教文書を配布。個人伝道によって、福音を伝えさせて頂きました。伝道所からのサポートはありませんので、前掲の農機具修理、制作をして収入を得ました。荷台自転車

巡回しましたが、道路事情が悪かったこともあり、3年間で3台を壊しました。伝道の範囲は、東は滋賀県草津、西は大阪府枚方の手前、京都府下では北方綾部方面の和知町まで。行く先々で泊めて頂いた農家は数えることができないほどで、今更ながらに見ず知らずの者をよく泊めてくださったと思うのです。私はテレビ番組「田舎に泊まろう!」の先駆けであったかもしれない。イエス様は「わたしたちに反対しないものは味方です」と仰せになりましたが、主が村人の心を開かれたので、各地で信仰告白をされる方が起こされたのです。聖霊が働いておられることを知り、畏れ、主を賛美し、感謝し、福音を伝えました。

一度だけ農家に泊まれなかった夜

泊めてくださる家がなく、野宿をしたことが一度ありました。2月の冷える夜でした。北極星を目当てに、どの方向に向かっていているのかを確かめながら夜道を走りました。屋根付きのバス停があったので一休みし、再び道を進んでいくと道端に炭焼き小屋があったので、そこに潜り込んで眠りました。寒さで目覚めて外に出ると、山間から東雲が見え始めていました。しばらく

して、近くの農家で灯がつけました。私はドアを叩いて、「旅の者です」と言って、助けを求めました。引き戸を開けてくださるなり、家の主人が「兄さん。ツキノワグマに出会わず、良かった良かった」と言って、家の中に入れてくださいました。冬眠しないクマが夜に徘徊する地域だったようです。夫人が「冷えた体を温めなさい」と言って、温かいお粥を出してくださいました。「この小さな者の一人にしたのは、わたしにしたのです」とのイエス様のお言葉を思い起こし、主なる神様の恵みと祝福を心の中で祈りました。いただいたお粥で、冷えた体が温かくなりました。その後、朝食を用意してくださり、美味しいお味噌汁と温かいご飯をいただきました。

食後、自分のことを紹介し、イエス・キリスト様を証しながら、農家を回っていることを話しました。主はご夫妻の心を開かれて、「自分たちにもイエス・キリスト様のことを聞かせてほしい」と求められたのです。囲炉裏を囲んで、イエス様の福音、十字架の死と葬り、復活を証し、真の神をご存じなかったことを悔い改め、信仰を持たれるように勧めました。悔い改めと信仰を持たれるように勧めますと、ご夫妻は涙を流しながら、信仰を告白されたのです。私は数日間の宿泊をお願いし、滋賀県境の湖西、朽木まで行つて引き返しました。夜はご夫妻と聖書会の時を持ちました。一度だけ、泊め



花背スキー場近くにある村

田上（たなかみ）村の出来事

琵琶湖南岸、瀬田の唐橋のある場所から流れ出している淀川に沿った道を下って行きますと、東の山の方角に田上村（今は町名）があります。その村に遣わされた時のことです。田の隅に大きな石があり、何人かの農夫が、その石を引き上げようとしておられるところに出くわしました。私は思わず、田の中に入って行って手伝いました。

国内宣教委員会 支援金と条件一覧

(1) 各種支援金

◆ 申請による支援金



申請方法: 規定の申請書によりメール添付、郵送、FAX により送付
 ※国民健康保険補助は、国民健康保険証の写しが必要です
 対 象: 伝道所および経済的に厳しい状況にある独立教会

① 伝道者支援 (伝道者・牧師家族を対象)

- ・国民健康保険補助 …月額 7,000 円
- ・伝道者支援 …月額 5,000 円

② 伝道支援 (年に1回、限度額内で実費を支援)

- ・特伝講師交通費 (上限 20,000 円)
- ・特伝講師宿泊費 (上限 5,000 円)
- ・トラクト作成費 (上限 10,000 円)

③ 伝道所(教会)支援 (伝道所・教会を対象)

- ・定額支援 …月額 5,000 円

◆ 国内宣教委員会が主体的に送金する支援金(申請の必要なし)

① 神学生支援(神学生全員が対象)

- ・定額支援 …月額 5,000 円

② クリスマス家族指定献金

- ・12月に伝道所の伝道師家族を対象に各10,000 円を送金



国内宣教委員会では各地域の伝道所および諸教会の働きを支援するため、以下の支援を行っています。支援についてのご相談は委員の井口までご連絡ください。

(2) 開拓基金

条 件: 開拓伝道期に1回、独立時もしくは独立後に1回利用できる
 ※無利子、無担保。

返済方法: 返済期間は原則5 年(事情によって短縮・延長可)
 返済方法は「均等方式」または「スライド方式」

貸付金額: 1 回150 万円を上限

必要書類: JBBF開拓基金借入申込書、伝道所ないし所属教会において基金借入申込の決議を行った際の議事録の写し



田上村

神社仏閣施設での伝道
 農家における伝道だけではなく、京都府下の知井村では寺院の本堂で。兵庫県境の大河内村では公民館で。大阪府下、四条縄手では神社の集会所で福音伝道集会を開きました。僧侶も神官も来られ、四条縄手では、僧侶が主イエス・キリストを信じる信仰告白をされたのです。「神は唯一です。偶像礼拝を悔い改め、主イエス・キリストを信じなさい。そうすれば救われます」と言って招きました。イエス様は「すべての造られた者に福音を宣べ伝えよ」とお命じになっておられるからです。一方、農村伝道の折、稲刈りの手伝いや山に入って薬草採取、由良川上流で魚漁に参加、松茸山にお供し、松茸採取の手伝いをしました。土産として、竹籠に山盛の松茸をいただいたので、凱旋將軍のように京都教会に持ち帰り、皆で分け合ったのです。吉田欣子姉(婚約者)の母。教会の姉姉。牧師ご夫妻も笑顔がいっぱいでした。

イエス様の十字架の話をしているとふすまの引き戸のある隣の部屋から、女性のすすり泣きが聞こえてきたのです。私が話すのを止めますと、夫人が「娘です。入ってきたら」と、声を掛けられました。泣きながら入って来られた夫人は両手をついて、「病気に甘えて、わがままな生活をしていたことを赦してください」と謝罪されたのです。ご主人にも頭を垂れて、「ごめんなさい」と言われたのです。「神の喜ばれるたましいは、悔いし、砕けたたましいです」とあります。それから私に「お兄さん。私のような罪深い者でも、イエス様は罪を赦してくださいいますか?」と言われました。私は答えました。「真の神様に対して罪を悔い改め、イエス様を自分の救い主と信じるなら、神はお救いくださいます。私も

「兄さん。あんた、どこの人? 何か信仰してるか?」と手を休めた人から声を掛けられたのです。「はい、初めまして。僕はイエス・キリストを信仰しています」。私は泥だらけの顔で答えました。「そやろなあ。どこから来た?」。「京都からです」「こりゃ重くて上がらんわ。兄さんもお茶でも飲んでいって」。私は井戸水で泥を落とし、縁側に腰を下ろして、お茶をいただきました。
 私の座った場所の横に、若い婦人物の着物が数枚畳んでありました。私は違和感を覚えて、「この着物?」と思わず声を掛けました。するとお茶を運んで来られた夫人が話し出されたのです。「家には結婚した婿取り娘がいるのです。ところが6年前に肋膜炎を患い、医者にかかっているのに良くならないので、近所にいる拝み家ばあさんのところに娘の着物を持って行って拝んでもらおうと出たのです」。私は驚き「それは迷信です。そんな所に行くのは罪です!」と言いました。すると家の御主人が「兄さん。今晚、泊まって、兄さんが信仰しているイエス・キリスト様の話、聞かせてもらえんやろか」と求められたのです。願ってもないことなので快諾しました。夕食をいただいた後、年配のご夫婦



瀬田の唐橋

と娘婿さんの三人に、私が主イエス・キリストを信じた時、救われたこととかなり具体的に証しし、福音をお伝えしました。「神の御子イエス・キリストが私や皆さんの罪の身代わりになって十字架に掛けられ、死なれたのです。人間は誰でも罪の性質をもって生まれ罪を犯すのです。自分中心の罪を犯すのです。特に天地万物、人間を創造された真の神がおられるのに、その神を知らず、知ろうともせず、迷信の神仏を拝んでいます。それが一番大きな罪です。人を愛さないことも罪です」。私は聖霊に満たされて、福音を証しさせて頂きました。

そのように悔い改めた時、罪赦され救われました。今もイエス様は生きておられます」。若い婦人は子供のよう素直な心でイエス様を受け入れられました。それぞれが信仰を告白して、聖霊による救いの証しと輝きがありました。主は栄光をあらわされたのです。翌日、その家の中庭の土間に、うわさを聞きつけて村人が来られ、信仰を告白する人が加えられました。近松牧師に電報を打ち、助けを求めました。三日間、村に滞在中、多くの村人にお会いしました。不思議なことが起こっておりました。耳が聞こえなかった夫の耳が聞こえるようになったという証しを聞きました。この家の肋膜炎を患っていた婦人の顔色が良くなったという証しも聞きました。「イエス様に感謝してください」と伝えました。その週の主日、教会の玄関で、いつもと違う大勢の声がします。滋賀県の田上村から汽車に乗って来られた26名の村人が京都教会の礼拝に参加されたのです。最初の夜、信仰を告白された若い夫人も明るい元氣そうな様子でおられました。